



友垣 由

練馬区立石神井西中学校だより
令和六年三月十一日 第十一号
校長 村上貴推

合唱コンクールの素晴らしさ

先週の金曜日、本校の合唱コンクールを所沢ミューズで開催いたしました。たくさんの方の保護者の皆さまにもお越しいただき、ありがとうございました。学年・クラスを問わず、素晴らしい歌声に万雷の拍手が鳴りやみませんでした。特に3年生は準備期間も短く、精神的にも大変だったと思いますが、歌声・演奏・指揮が一体となり、「さすがー」の一言でした。

さて、結果は各学年金賞クラスが決まりました。3年…C組、2年…A組、1年…B組でした。順位は付きましたが、どのクラスも負けない、精一杯の力を出し切ったと感じました。今回は合唱コンクールを通じて感じた合唱の素晴らしさについて、考えてみたいと思います。

1 素晴らしさ①「調和と共感」

合唱が素晴らしい感動を生む理由の一つに集団の「調和と共感」があると思います。合唱では、個々の声が調和を保ちながら一つの音楽を奏でます。例えば、ある曲でソプラノ、アルト、テノールといった異なる声部が組み合わせ、独自の旋律やリズムを保ちながらも一体感を生み出します。この集団の調和は、聴く人に感情移入を引き起こし、共感を生む原動力となります。

例えば、3年生の課題曲「大地讃頌」では、音域の広がりや多角的な重なり、ハーモニー等の難所を力強く奏でました。きつと練習を重ね、自分たちの声の一つになったと実感したことが、私たちにも感動的な調和を感じ取ることができたのだと思います。このように合唱とは、集団の調和を通じて共感を生み出すことができるものだと思えました。

2 素晴らしさ②「感情表現と表現力」

合唱はまた、感情の表現とその表現力を高めることで素晴らしい感動を生み出します。歌詞やメロディーを通して様々な感情を表現

し、聴いている私たちに伝えてくれます。例えば、悲しみや喜び、希望や勇気など、私たちが生きていくうえで感じる様々な感情を表現する楽曲が多く歌われるからです。

2年生の課題曲であった「マイバード」は、心と心のつながりや平和な世界への希望を歌ったもので、歌詞とメロディーが相まって聴く私たちの心に深く響きました。全てのクラスが歌詞の意味を理解し、感情を込めて歌ったこと、また、リズムに乗って歌う箇所と大らかな部分を見事に歌い上げたことで、感動の合唱となりました。このように、合唱が感情の表現と表現力によって、深い感動を生み出してくれると思います。

3 素晴らしさ③「共有体験と結束」

最後に忘れてはならない要素、それは合唱が参加した全員の共有された体験と結束を形成することで素晴らしい感動を生み出すことです。各クラスは練習を通じて一体感を深め、ともに成長し数々の困難を乗り越えていきます。私も以前クラス担任をしていたころ、合唱コンクールという行事は悩ましい時間でもありました。なかなか一人一人の意識が揃わず、その差から生まれる揉めごとが毎日のようにクラスで起こるからです。でも、その先にはステージでのパフォーマンスを通じて、これまでの努力や困難を乗り越えて生まれた絆が聴いている人の心に響きます。聴衆に感動や感激を与えたことを全員で感じ、それがクラスの結束につながっていきます。

そのような思いをぶつけながら毎日練習してきた1年生は、課題曲「カリブ夢の旅」で困難に直面したり、個々の課題に取り組んだりしながら、結束力を高めました。そして、コンクールのステージでリズムカルな楽曲を奏で、客席にいる私たちと陽気な一体感を味わい、共に成し遂げた喜びを分かち合うことができました。これまでの努力と絆に感動し、万雷の拍手につながったと思います。

4 感動のフィナーレへ

このように、合唱は集団の調和と共感、感情の表現と表現力、そして共有された体験と結束を通して素晴らしい感動を生み出してくれるのです！生徒の皆さん、感動の、そして素晴らしい一日がありました。